

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（大学教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 19(90%) 2. 1(5%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 18(86%) 2. 2(10%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 16(76%) 2. 2(10%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 2(10%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 15(71%) 2. 4(19%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 13(62%) 2. 6(29%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 17(80%) 2. 2(10%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 15(71%) 2. 4(19%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 12(57%) 2. 7(33%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 9(43%) 2. 10(43%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 13(62%) 2. 7(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（大学教育入門セミナー）

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 3 (14%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 11 (52%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 1 (5%)
- 4.その他： 1 (5%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 5 (24%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 13 (62%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (10%)
- 4.その他： 2 (10%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：5クラス（順不同）

1. 3年ぶりに対面講義ができたので、対面形式に則した内容に改善した。
2. 昨年度は2部屋での講義を実施していたが、学生の意見を反映して広い1部屋で実施した。昨年度のような不満はなくなった。
3. グループワークをしやすいうように、OneDriveを利用してファイル共有をさせるようにした。
4. レポートの作成については、具体例を示してわかりやすく解説・説明をした。プレゼンテーションについても、パワーポイント作成に力を入れ、学生のスキルアップが図れたと考える。
5. グループワークが円滑に実施できるように議論を促した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：6クラス（順不同）

1. 対面形式の良さを発揮できたと思う。
2. 本講義では、新入生が大学生活をスムーズにスタートできるような指導を行っている。以前担当した学年に比べると授業を欠席する学生が多く、十分な指導を行えなかったのが残念である。
3. 講義担当して1年目だったため、学生のフィードバックを踏まえて柔軟に改善すべき点を改善したい。
4. コロナ関係で自宅待機をする学生も、zoomとスピーカーマイクを利用して自宅から授業に参加できるようにした。
5. 基本的なマナー、コミュニケーション技術、大学生としての自覚を促すなど、これから大学生活を送るうえで役立つ内容であると考えます。
6. 【評価できる点】本講義では、毎回少人数のグループ（5～6名）でのグループワークを取り入れるようにした。グループはメンバーが被らないように編成して実施したことにより、受講生より「普段話すことのない学生と話す機会になってよかった」という評価を得た。  
【反省すべき点】今年度から担当した講義だったため、90分の講義時間をうまく使えない回があった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：1クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 19 (90%)      2.いいえ： 1 (5%)      未回答： 1 (5%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 12 (63%)
- 2.読んで理解する： 11 (58%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 13 (68%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 15 (79%)
- 5.討論する： 11 (58%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 12 (63%)
- 7.その他： 2 (11%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：11クラス（順不同）

1. 大学生活で取り組みたいまたは興味のあるテーマについて紹介するプレゼンテーションを課した。具体的には、グループ分け、テーマ決め、ディスカッション、インターネットや文献を用いた調査、パワーポイントによる資料作成、プレゼンテーション、ディスカッション、振り返りなどを実施した。
2. 自分の考えを他者に上手に伝えるためのコツを教えて、練習をした。
3. 日本語読解能力試験を実施した。また、受講生に作問とそのレビューを経験させた。
4. 大学内の施設見学を行い、その内容を班単位で発表させた。
5. 1グループ5名でのディスカッション活動が行われた。この活動の前提には、個々のレポート、その内容のプレゼンテーションがあった。プレゼンテーションは、相互の評価も取り入れた。
6. 自己紹介、ノートテイク練習、グループディスカッション等
7. 1人ずつ情報検索して作成したレポートを元に、グループワークによって班ごとに発表スライドを作成・発表させることにより、グループ内での情報共有や意見の取りまとめを行わせた。
8. 4,5人のグループに分かれて、課題レポート、スライドの内容を説明しあい、教科書のチェックリストを参照しつつ改善すべき点を伝えあった。
9. グループワークによる地域課題の解決についての提案とプレゼンテーション
10. 「コミュニケーション講座」「ゲートキーパー養成講座」「実習前マナー講座」を開催し、様々な角度からコミュニケーションを学んでいる。
11. 講義の一環として、社会人との交流会を2回に分けて実施した。1回目は本学部の卒業生を含む若手社会人編、2回目は経営者/人事担当者編として行い、計31名の社会人にご参加いただいた。講義形式ではなく、少人数の座談会形式で実施したことにより、一方通行ではなく、会話のキャッチボールをしながら受講生自身が社会人から思いや考えを引き出すことができるようにプログラム設計した。

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 14 (67%)      2.いいえ： 6 (29%)      未回答： 1 (5%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 10 (71%)      2.6回～10回： 3 (21%)      3.11回～15回： 1 (7%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 2 (14%)      2.政治・経済・産業： 5 (36%)  
3.自然環境・フィールド体験： 7 (50%)      4.その他： 6 (43%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：3クラス（順不同）

1. 自立支援協議会との協定をもとに、連携をとって授業を進行している。具体的には、自立支援協議会メンバー、市役所障がい福祉課の授業への参画、フィールドの提供といったことがある。
2. 土木環境工学に関する現場見学に参加し、それに対するレポートを作成する。
3. 「地域の課題」について各自が興味あるテーマで情報検索を行わせ、レポート作成やグループ発表を行わせた。

**E(Q23～Q24) : 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 1 (5%)      2.10%以内： 0 (0%)      3.10%～20%： 1 (5%)  
4.21%～30%： 4 (19%)      5.31%～40%： 1 (5%)      6.41%～50%： 1 (5%)  
7.51%～60%： 4 (19%)      8.61%～70%： 1 (5%)      9.71%～80%： 3 (14%)  
10.81%～90%： 0 (0%)      11.91%～100%： 4 (19%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 10 (53%)      2.双方向（対話・討論）： 8 (42%)  
3.グループワーク： 17 (89%)      4.フィールド型： 2 (11%)      5.メディア活用： 7 (37%)  
6.TA活用： 1 (5%)      7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 1 (5%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 1 (5%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 3 (14%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 1 (5%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（情報・数量スキル）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 7(78%) 2. 2(22%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 6(67%) 2. 3(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 7(78%) 2. 2(22%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 7(78%) 2. 2(22%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 6(67%) 2. 3(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 6(67%) 2. 2(22%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(11%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 8(89%) 2. 1(11%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 6(67%) 2. 3(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 5(56%) 2. 4(44%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 8(89%) 2. 1(11%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (11%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 8 (89%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 1 (11%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 2 (22%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 8 (89%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 1 (11%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：3クラス（順不同）

1. 学生の進捗を把握するため巡回をまめにした。なお、ここ数年はコロナ対応のため授業様式が毎年変更となり、その対応に意識が割かれたこと、今年から講義内容を変更させられたことの対応などで授業改善まで手が回っていないのが正直なところである。
2. 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）のモデルカリキュラムの要素を満たすように、授業内容を更新した。具体的には、情報・数量スキルの授業内容を再編し、データサイエンス入門の動画コンテンツ教材を導入してデータサイエンス・AIの基礎、データ・AI利活用における留意事項を理解させ、統計学の初歩的な技能を理解し、分析に活用することができようExcelを用いた演習課題を新たに取り入れた。
3. 対面講義が主体となり、学生の様子を見ながら進度を調整することができた。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：3クラス（順不同）

1. 前任者から引き継いで初年度の講義だったので試行錯誤を要したが、「情報・数量スキル部会」の支援や前任者が蓄積した教材のおかげで満足いく授業が出来た。学生の実態に即したレポート課題などを設定することが次年度の目標である。また、学生の授業評価アンケートにおいて教室設備についての苦情（プロジェクタの光度が低いので見えにくい）があったことから、次年度は配布資料等による工夫も考えたい。地域社会だけでなく、化学のエッセンスも可能な限り取り入れたこともあり、内容は概ね好評であったようで学生の学習意欲を引き出すのに成功したと思われる。次年度以降も基礎教育の範囲を逸脱しない程度に今回立案した内容を引き継ぎ、より効果的な授業を実施したい。
2. 毎回の授業内容を復習できるように、資料や動画をWebClassに登録、公開して、学生が授業を容易に復習できるように配慮した。情報リテラシーの授業では学生による演習がメインとなるため、授業の理解度、重要であると思ったこと、わからなかったことについて、毎回の授業の最後に振り返りアンケートをWebClassで回答させ、授業内容の説明不足や改善すべき点の把握に努めた。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（情報・数量スキル）

3. レポートについて学生のピアレビューを試みたが、期限までに提出されていないレポートがあったり、採点対象のレポートをうまく担当学生に提示させることができないなど LMS の操作設定について、さらに調査しておく必要を感じた。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：1クラス

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 5 (56%)      2.いいえ： 4 (44%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 1 (20%)
- 2.読んで理解する： 0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 2 (40%)
- 5.討論する： 1 (20%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 4 (80%)
- 7.その他： 1 (20%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：1クラス（順不同）

1. 工学部なので最終的に自分の考えや成果を論文にまとめることを考え、相互参照や図表・キャプション配置に関する論文上のマナーについて教授した。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 6 (67%)      2.いいえ： 3 (33%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 6 (100%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（情報・数量スキル）

Q21. 「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1. 歴史・文化： 1 (17%)      2. 政治・経済・産業： 4 (67%)  
3. 自然環境・フィールド体験： 3 (50%)      4. その他： 2 (33%)

Q22. 「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。 回答：1クラス（順不同）

1. 統計分析をいかに活用するかをグループワークでかなり時間を割いて議論させた。グループ間の差が出てしまったことが反省点として挙げられるが、目を見張るような成果物を出してきたグループもあり、アクティブラーニングの面白さと難しさを実感した。次年度では、こうした成果物を見本として提示させながらコメントすることで学習がより進むような仕掛けを作りたいと思う。特に、1年生ということもあって、揺さぶり発問を適宜投げかけることでグループでの議論にほぼ全員が参画できるように出来た。うまく学生のレベルとマッチすれば、良いテーマ設定ができるようなので次年度も積極的に同様な授業手法を活用したい。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23. 全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

- 1.0%： 0 (0%)      2.10%以内： 0 (0%)      3.10%～20%： 0 (0%)  
4.21%～30%： 1 (11%)      5.31%～40%： 0 (0%)      6.41%～50%： 1 (11%)  
7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 1 (11%)  
10.81%～90%： 2 (22%)      11.91%～100%： 4 (44%)

Q24. アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 少人数（10人程度）： 1 (11%)      2. 双方向（対話・討論）： 2 (22%)  
3. グループワーク： 2 (22%)      4. フィールド型： 0 (0%)      5. メディア活用： 4 (44%)  
6. TA活用： 7 (78%)      7. その他： 0 (0%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25. 次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1. 授業を英語のみで行っている： 1 (11%)  
2. 授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)  
3. 英語のみで板書している： 0 (0%)  
4. 重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 2 (22%)  
5. 英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)  
6. 一部英語併記の教材・資料を使用している： 1 (11%)  
7. 英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 1 (11%)  
8. 学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)  
9. 宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)  
10. 学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 1 (11%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（英語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 31(69%) 2. 11(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 24(53%) 2. 19(42%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 24(53%) 2. 19(42%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 29(64%) 2. 14(31%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 30(67%) 2. 13(29%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 31(69%) 2. 11(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 31(69%) 2. 12(27%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 28 (62%) 2. 14(31%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 3(7%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 20(44%) 2. 21(47%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 4(9%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 20(44%) 2. 23(51%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 2 (4%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 22 (49%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 3 (7%)
- 4.その他： 20 (44%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 13 (29%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 28 (62%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 8 (18%)
- 4.その他： 13 (29%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：19クラス（順不同）

1. 感染に留意し、すべての授業を対面で行った。速やかに学生の理解状況をチェックし、補足説明を行った。対面時に紙媒体の資料を配布すると共に、授業で使用したスライドや資料等を授業終了直後に WebClass に掲載し、特別欠席で出席できなかった学生へのサポートを行った。(2クラス)
2. 昨年度のオンライン学習から対面授業に変更になったので、テンポの良い授業進行や学生一人一人に出来るだけ声掛けすることを心掛けた。(2クラス)
3. 新しい共通教材だったので、新しい単語やフレーズを音声ファイルに吹き込み、学生が何度でも練習するようにした。
4. 配布資料の更新。改訂。感染に留意し、すべての授業を対面で行った。速やかに学生の理解状況をチェックし、補足説明を行った。対面時に紙媒体の資料を配布すると共に、授業で使用したスライドや資料等を授業終了直後に WebClass に掲載し、特別欠席で出席できなかった学生へのサポートを行った。対面授業に学習目的に応じて WebClass、Google Forms、MReader 等のツールを用いることで利便性を高めた。今期より多読活動を附属図書館と連携し、学生の自律学修支援を行った。
5. I streamlined the content slideshows and online practice activities. (2クラス)  
(コンテンツのスライドショーとオンラインの練習活動を効率化しました。)
6. ・配布資料の更新・改訂・感染に留意し、すべての授業を対面で行った。・速やかに学生の理解状況をチェックし、補足説明を行った。・対面時に紙媒体の資料を配布すると共に、授業で使用したスライドや資料等を授業終了直後に WebClass に掲載し、特別欠席で出席できなかった学生へのサポートを行った。・対面授業に学習目的に応じて WebClass、Google Forms、MReader 等のツールを用いることで利便性を高めた。・今期より多読活動を附属図書館と連携し、学生の自律学修支援を行った。
7. 学生の活動量を多くした。(2クラス)
8. より丁寧な文法説明を心掛けた。進度は落ちたが、よかったと思う。
9. 英語を学生同士で添削させる活動をしている。その際必要と思われる文法について資料を配布した。
10. 今回は前回と違い、工学部共通教材だったので、すべてが新しく学生のレベルに合っているのか少々戸惑いました。

## 教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（英語）

11. 完全にオンデマンドで行った昨年度の授業と対面となった今年度の授業はかなり異なったため、実施するのはむずかしいというふうに思うが、学生へのフィードバックに改善できたと思う。
12. 生徒の医学的知識レベルをよく理解しているので、課題を調整することができるのです。
13. I have developed a clearer focus for teaching case presentations (order, format)  
(ケース プレゼンテーションを教える際の焦点がより明確になりました (順序、形式。))
14. 教科書を見ずに、もっとクリエイティブに英語を使おうとさせることができました。
15. More streamlined survey project.( より合理化された調査プロジェクト。)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：19クラス（順不同）

1. 今学期、貴学で授業を初めて担当させていただいた。MIDが発行されたのが授業開始約1週間前だったこともあり、WebClass を使った教材提示、小テストの作成・実施などに慣れるのに2、3週間を要した。今後また指導する機会があれば、WebClass の機能をより良く理解した上で、初回授業から効果的な授業が行えるように努めたい。なお、WebClass の使い方について、丁寧に教えていただいた山本佳代先生には大変感謝しております。  
(2クラス)
2. ・対面授業に学習目的に応じて WebClass、Google Forms、MReader 等のツールを用いることで利便性を高めた。・今期より多読活動を附属図書館と連携し、学生の自律学修支援を行った。・授業終了時に毎回小片を配布し、質問、コメントを記入させ、個別またはクラス全体へのフィードバックを行った。授業時に質問できなかった学生への細やかな対応が可能となり、また、クラス全体に情報を共有することにより一体感を生み出すことが可能となった。(2クラス)
3. 新しい共通教材だったので、新しい単語やフレーズを音声ファイルに吹き込み、学生が何度でも練習できるようにした。学生が書いてきた話題を授業時にペアーで伝えあい、その後 Follow Up Questions をできるだけするように促した。
4. 評価できる点：授業時に小片を配布し、学生に質問、コメントを記入してもらい、毎回フィードバックを行っている点。学生理解に役立っている。(2クラス)
5. Getting over COVID fatigue is essential to future development; if further FD activities are deemed important part-time lecturers should be compensated for the time they invest. (2クラス)  
(新型コロナウイルス疲れを乗り越えることは、将来の発展にとって不可欠です。今後も FD 活動が重要であると判断するならば、非常勤講師が投資した時間に対して補償されるべきです。)
6. アクティブ・ラーニングを実行できた。(2クラス)
7. 二年ぶりの対面授業だったので、できるだけ学生に話しかけるようにしました。
8. 学生にとって読み応えのある教材を提供できたと思うので、それは良かった。しかし、期末テストで、一人だけほとんど理解できていない学生がいたので、今後、このような学生を早めに見つけて対応したい。
9. 名文や名スピーチをお手本にして英語を書かせる授業で、学生同士で添削させている。教師もアドバイスはするものの、全員には無理で、何らかの方法を考えたい。
10. 学生の将来の英語使用を考えながら授業の内容を調整したこと。プレゼンテーションでは、一方向ではなく双方向で発表できるようにディスカッション・クエスチョンを必ず設定させ、プレゼンターがMC役となって会場の意見を拾うようにさせた。この行為は、小学校・中学校英語の教室内で教員が児童・生徒と行う行為と似ている(多少高度ではあるが)、相手意識をもって発表したりやり取りしたりする力と気持ちの育成ができたと思う。

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（英語）

11. 学生同士の発表の時間をもっと作りたい。
12. Clearer understanding of difficult points for students. (2クラス)  
(学生にとって難しい点をより明確に理解した。)
13. 教科書を見ずに、もっとクリエイティブに英語を使おうとさせることができました。

Q15. FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16. 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1. はい： 43 (96%)      2. いいえ： 0 (0%)      未回答： 2 (4%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17. 下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

1. 聞いて理解する： 32 (74%)
2. 読んで理解する： 34 (79%)
3. 自分の考えをまとめて話す： 30 (70%)
4. 自分の考えを文章にまとめる： 27 (63%)
5. 討論する： 25 (58%)
6. 皆の前でプレゼンテーションする： 25 (58%)
7. その他： 6 (14%)

Q18. 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：24クラス (順不同)

1. ・Reading Project: 個々の学生が英文記事を見つけ、精読後、クラスメンバーに内容を分かりやすく伝える活動。各発表者へはクラスメンバーからフィードバックを行う。・Essay Writing: 自分の考えをまとめて、250 words の英文エッセイを作成する活動。(2クラス)
2. ペアワーク、グループワークを多用した授業の進行、授業最終回のクラス内プレゼンテーションの実施。(2クラス)
4. 学生が書いてきた話題を授業時にペアで伝えあい、その後 Follow Up Questions をできるだけするよう促した。
5. ・毎時、テキストの解答・ディスカッションは、基本的に各グループのリーダーが全て英語で行い、ノートテイクがメンバーの意見を英語でまとめて提出している。・各ユニットの最終課題で、グループ単位での英語プレゼンテーションを行っている。(2クラス)
6. The primary communicative activities in the course were (1) regular group discussions, (2) group presentations with feedback sheets, and (3) student self-evaluation and reflective writing. (2クラス)  
(コースにおける主要なコミュニケーション活動は、(1) 定期的なグループディスカッション、(2) フィードバックシートを使用したグループプレゼンテーション、(3) 学生の自己評価と反省文の作成でした。)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（英語）

7. グループワークを多く取り入れ、「コミュニケーション能力の育成」をはかった。
8. テキストにある絵についてペアで互いに描写させ話す機会を増やしました、テキストにある対話部分ではできるだけペアワークをさせました。
9. 基本的に、授業中はグループで着席させている。教師の質問にまず個人をあてる。ひとりで答えられる場合はよいが、正答にたどり着けない場合、グループで助け合うよう導いている。（2クラス）
10. 自分が読んだ内容を、その内容を知らない相手に伝えるプレゼンテーションを行った。自分と相手の情報格差を埋めるために、内容の精選と言語のわかりやすさ（伝わりやすさ）などを考える取り組みを行った。
11. できるだけ、ペアワークをすることで互いに話す機会を持った。
12. グループで英語のプレゼンテーションを取り入れた。（4クラス）
13. 私たちは常にこのスキルに取り組んでいます。
14. スピーキング・リスニングの科目なので、ほとんどの内容はコミュニケーション能力の育成となったと思える。
15. I focus on cognition as much as language.( 私は言語と同じくらい認知に焦点を当てています。)
16. I concentrate on developing cognition as much as language.  
(私は言語と同じくらい認知力の発達に集中しています。)
17. 全ての授業は、コミュニケーション能力を中心として行った。

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 11 (24%)      2.いいえ： 30 (67%)      未回答： 4 (9%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 9 (82%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 1 (9%)  
未回答： 1 (9%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 7 (64%)      2.政治・経済・産業： 6 (55%)  
3.自然環境・フィールド体験： 7 (64%)      4.その他： 5 (45%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：5クラス（順不同）

1. 各国の事情を勉強しながら、地域（宮崎など）との認識するや比べること取り入れた。（4クラス）
2. 地元の妊娠手帳を利用しました。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

**Q23.**全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%)      2.10%以内： 0 (0%)      3.10%～20%： 0 (0%)  
4.21%～30%： 1 (2%)      5.31%～40%： 4 (9%)      6.41%～50%： 3 (7%)  
7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 4 (9%)      9.71%～80%： 1 (2%)  
10.81%～90%： 8 (18%)      11.91%～100%： 21 (47%)

**Q24.**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 13 (31%)      2.双方向（対話・討論）： 32 (76%)  
3.グループワーク： 38 (90%)      4.フィールド型： 1 (2%)      5.メディア活用： 15 (36%)  
6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 2 (5%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

**Q25.**次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 9 (20%)  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 24 (53%)  
3.英語のみで板書している： 15 (33%)  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 14 (31%)  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 23 (51%)  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 15 (33%)  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 24 (53%)  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 21 (47%)  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 29 (64%)  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 18 (40%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（初修外国語）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 21(78%) 2. 6(22%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 26(96%) 2. 1(4%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 22(81%) 2. 5(19%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 27(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 26(96%) 2. 1(4%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 26(96%) 2. 1(4%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 24(89%) 2. 3(11%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 26(96%) 2. 1(4%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 22(81%) 2. 5(19%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 20(74%) 2. 5(19%) 3. 1(4%) 4. 0(0%) 未回答 1(4%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 4 (15%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 13 (48%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 5 (19%)
- 4.その他： 12 (44%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 8 (30%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 14 (52%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 12 (44%)
- 4.その他： 15 (56%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：15クラス（順不同）

1. 対面授業の中でのWebClassのバランスよい活用を心がけた。(5クラス)
2. 昨年度と比べて、対面授業中心の授業になったので、学生の反応を見て、授業の説明や進度を調整した。そのため若干進度が遅れたが、説明を十分に出来たと思う。
3. クラス全体として無理のないスピードによる授業を心掛けた。期末試験に向けては、WebClassの中に対策のための教材などを準備し、要点を捉えながら復習などができるようにした。(3クラス)
4. できるだけ対面授業を行いました。
5. 100%オンライン（オンデマンド）型だった昨年度に比べ、今年度は対面型が中心だったため、学生と直接なコミュニケーションをとりながら授業を進めることができた。なお、オンデマンド授業をも交えた授業構成にしたため、両方の長所を生かした授業ができたと考える。(4クラス)
6. 今年度は対面授業が中心となったので、学生の反応を見ながら、授業のレベルや進度を考えて進めることができた。遠隔では、必ずしもそうは出来ず、こちらの予定に従っての授業になったので、学生への対応はより現場の反応に沿ったものできたと思う。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：14クラス（順不同）

1. ドイツ語学習やドイツ文化の知識習得に役立つ映像教材を使用している点。(5クラス)
2. 今年度は対面授業中心となり、学生の反応を見ながらの対応が出来たと思う。しかし、そのため進度が遅れたことは否めない。今後はこの学生の反応への対策と進度のバランスを上手く取りたい。
3. 学生が達成感を感じることができることを重視した。中国語で表現できることが増えることによって学びが進んでいることを感じた学生も多かった。難しいと感じて学びを敬遠しがちな学生には、できないことを挫折などと考えなくてもよいことを繰り返し伝え、できる限り学習意欲が下がらないように努めた。その結果、多くの学生がそれぞれのレベルに応じて向上できたと感じたと思う。(3クラス)

4. 毎学期ネイティブの留学生を TA として雇用しているが、今年度は留学生が少なく負担が集中したため、授業補助の効果が高くなかった。対面とオンデマンドを併行したのは初めての試みだったが、どちらかの授業より学生や授業管理の面において教員の負担が大きいことが分かった。今後対策を講じたい。（4クラス）
5. 学生の反応を見ながらの授業は、ともすると説明が長くなり、進度を遅らす面がある。この授業も多少そういうきらいがあったかもしれない。もう少し先まで進みたかった。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 25 (93%)      2.いいえ： 1 (4%)      未回答： 1 (4%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 19 (76%)
- 2.読んで理解する： 25 (100%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 5 (20%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 9 (36%)
- 5.討論する： 4 (16%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 8 (32%)
- 7.その他： 5 (20%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：18クラス（順不同）

1. この授業はドイツ語の授業です。ドイツ語あるいは言語はコミュニケーションの手段です。ですから、この授業では当然コミュニケーション能力（聞くこと、話すこと、読むこと、書くこと）の育成が考慮されました。（「言語はコミュニケーションの手段である。」という考えに反対する言語学者もいるが、今はその問題には触れない。）
2. 映画を見て、レポートにおいて自分の考えをまとめさせた。（5クラス）
3. 学生を指名して、質問や練習問題の解答をさせるが、答える学生の反応を見て、すぐに正解を与えることなく、なるべく自力で正解にたどり着くように促した。
4. グループワークを取り入れた。（4クラス）
5. 課題や会話の時間にはペア活動やグループ活動をさせている。（4クラス）
6. 異文化コミュニケーション育成の観点から、韓国語で簡単な自己紹介や会話ができるよう指導した。（2クラス）
7. 学生一人一人との対話から、正解を引き出すよう努めた。直ぐに正答を示すのではなく、なるべく自力で、正解に到達するように促した。

**D (Q19～Q22) :** 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 0 (0%)      2.いいえ： 24 (89%)      未回答： 3 (11%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 0 (0%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 0 (0%)      2.政治・経済・産業： 0 (0%)  
3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%)      4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス（順不同）

**E(Q23～Q24) :** 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%)      2.10%以内： 1 (4%)      3.10%～20%： 9 (33%)  
4.21%～30%： 2 (7%)      5.31%～40%： 1 (4%)      6.41%～50%： 1 (4%)  
7.51%～60%： 8 (30%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 0 (0%)  
10.81%～90%： 0 (0%)      11.91%～100%： 3 (11%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 8 (32%)      2.双方向（対話・討論）： 16 (64%)  
3.グループワーク： 12 (48%)      4.フィールド型： 0 (0%)      5.メディア活用： 20 (80%)  
6.TA活用： 4 (16%)      7.その他： 10 (40%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 8 (30%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 7 (26%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（保健体育）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 2(100%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 0(0%) 2. 2(100%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 1(50%) 2. 1(50%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

**B (Q11.～Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 1 (50%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 2 (100%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 0 (0%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：0クラス (順不同)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：1クラス (順不同)

1. 学生同士がコミュニケーションをとれる機会を積極的に設けた。授業時間外の学習を促進するための取組みを今後考えたい。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

**C (Q16～Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

- 1.はい： 1 (50%)      2.いいえ： 1 (50%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 0 (0%)
- 2.読んで理解する： 0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 0 (0%)
- 5.討論する： 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 1 (100%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：1クラス（順不同）

1. 実技種目におけるチーム作成を学部等が重複しないようメンバーを調整し、普段コミュニケーションをとる機会の少ない人と会話機会を設けるようにした。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 0 (0%)      2.いいえ： 1 (50%)      未回答： 1 (50%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 0 (0%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)

未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 0 (0%)      2.政治・経済・産業： 0 (0%)

3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%)      4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス（順不同）

E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 1 (50%)      2.10%以内： 0 (0%)      3.10%～20%： 0 (0%)

4.21%～30%： 1 (50%)      5.31%～40%： 0 (0%)      6.41%～50%： 0 (0%)

7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 0 (0%)

10.81%～90%： 0 (0%)      11.91%～100%： 0 (0%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 0 (0%)      2.双方向（対話・討論）： 0 (0%)

3.グループワーク： 1 (50%)      4.フィールド型： 1(50%)      5.メディア活用： 0 (0%)

6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（専門基礎）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 16(76%) 2. 4(19%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 12(57%) 2. 7(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(10%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 15(71%) 2. 3(14%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 2(10%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 14(67%) 2. 6(29%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 5(24%) 2. 15(71%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 17(81%) 2. 3(14%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 9(43%) 2. 10(48%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 13(62%) 2. 6(29%) 3. 1(5%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 10(48%) 2. 10(48%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 15(71%) 2. 5(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(5%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (5%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 15 (71%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 2 (10%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 3 (14%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 14 (67%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 3 (14%)
- 4.その他： 2 (10%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：9クラス（順不同）

1. オンデマンド配信を廃止し、対面講義に戻した。ただ、教室のキャパの関係上（教室キャパのほぼ100%になる）、全員を集めるのが怖かったので、ハイブリッド配信することで対応した。学生からは概ね好評だったと思われる。
2. 遠隔授業から対面授業に戻した。本年度からは、単純な問題演習のみならず、統計学的な実験とレポート提出を課題とし、文章記述に関する指導も行うこととした。
3. 反転授業形式で授業を進めた。質問する学生にインセンティブを与え、授業中に学生が活発に質問するような試みをした。（2クラス）
4. 授業内容に見合った復習を課した。
5. 授業の進捗や学生の課題進捗などを見ながらペースを変えるなどの工夫を行った。
6. よりわかりやすい教科書に変更した（3クラス）

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：5クラス（順不同）

1. 成績不振者は日常的な学習が足りていないと感じている。このような学生の学習意欲を如何にして高めるかが課題と考えている。
2. 事前学習用の動画教材がまだ十分でなく、今後、動画教材の内容を充実させていく必要がある。（2クラス）
3. 内容的に重要ポイントとして強調すべきことを挙げるのは困難であった。様々な職種のゲストスピーカーをお招きして基礎教育科目として幅広い知見が得られるようにした。
4. 今年の学生は、進捗があまり良くなかった点とコロナ感染者がおり、進捗に大きな差が出てしまった。補修ではないが、個別対応などを行ったことで、差を埋めることはできたが一部の学生であった事が反省点である。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（専門基礎）

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 5 (24%)      2.いいえ： 13 (62%)      未回答： 3 (14%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 3 (60%)
- 2.読んで理解する： 4 (80%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 2 (40%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 3 (60%)
- 5.討論する： 1 (20%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 1 (20%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：2クラス（順不同）

- 1.・授業中に他の学生と相談しながら進める。・報告書に取り纏めるため、理解し伝えることが求められる。
- 2.「国旗・国歌斉唱を拒否した教員に対して懲戒処分が下されたのはなぜか」を議題に、議論を行った。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 4 (19%)      2.いいえ： 12 (57%)      未回答： 5 (24%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 3 (75%)      2.6回～10回： 1 (25%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

1.歴史・文化： 1 (25%)      2.政治・経済・産業： 2 (50%)  
3.自然環境・フィールド体験： 2 (50%)      4.その他： 1 (25%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス（順不同）

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 5 (24%)      2.10%以内： 2 (10%)      3.10%～20%： 0 (0%)  
4.21%～30%： 1 (5%)      5.31%～40%： 0 (0%)      6.41%～50%： 1 (5%)  
7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 1 (5%)      9.71%～80%： 2 (10%)  
10.81%～90%： 5 (24%)      11.91%～100%： 1 (5%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 3 (23%)      2.双方向（対話・討論）： 6 (46%)  
3.グループワーク： 3 (23%)      4.フィールド型： 0 (0%)      5.メディア活用： 8 (62%)  
6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 5 (38%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 1 (5%)  
3.英語のみで板書している： 0 (0%)  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 10 (48%)  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 1 (5%)  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 1 (5%)  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（専門教育入門セミナー）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 2(66%) 2. 0(0%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 0(0%) 2. 2(66%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 1(33%) 2. 1(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 1(33%) 2. 1(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 0(0%) 2. 2(66%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 0(0%) 2. 2(66%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 0(0%) 2. 1(33%) 3. 1(33%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 1(33%) 2. 1(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 0(0%) 2. 2(66%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 0(0%) 2. 2(66%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(33%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (33%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 2 (66%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 1 (33%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 2 (66%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 0 (0%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：0クラス (順不同)

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：0クラス (順不同)

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

**C (Q16~Q18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

- 1.はい： 0 (0%)      2.いいえ： 2 (66%)      未回答： 1 (33%)

<Q16で「はい」の方はQ17~18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 0 (0%)
- 2.読んで理解する： 0 (0%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 0 (0%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 0 (0%)
- 5.討論する： 0 (0%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 0 (0%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：0クラス (順不同)

**D (Q19～Q22) :** 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 0 (0%)      2.いいえ： 2 (66%)      未回答： 1 (33%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 0 (0%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。（複数回答可）

1.歴史・文化： 0 (0%)      2.政治・経済・産業： 0 (0%)  
3.自然環境・フィールド体験： 0 (0%)      4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：0クラス（順不同）

**E(Q23～Q24) :** 中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。

Q23.全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%)      2.10%以内： 1 (33%)      3.10%～20%： 0 (0%)  
4.21%～30%： 0 (0%)      5.31%～40%： 1 (33%)      6.41%～50%： 0 (0%)  
7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 0 (0%)      9.71%～80%： 0 (0%)  
10.81%～90%： 0 (0%)      11.91%～100%： 0 (0%)

Q24.アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 0 (0%)      2.双方向（対話・討論）： 1 (33%)  
3.グループワーク： 0 (0%)      4.フィールド型： 0 (0%)      5.メディア活用： 1 (33%)  
6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 0 (0%)

F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。

Q25.次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

- 1.授業を英語のみで行っている： 1 (33%)
- 2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 0 (0%)
- 3.英語のみで板書している： 0 (0%)
- 4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 0 (0%)
- 5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 0 (0%)
- 7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)
- 8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)
- 9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)
- 10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（環境と生命）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 15(94%) 2. 1(6%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 15(94%) 2. 1(6%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 12(75%) 2. 4(25%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 11(69%) 2. 5(31%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 9(56%) 2. 7(44%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 13(81%) 2. 2(13%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(6%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 7(44%) 2. 9(56%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 9(56%) 2. 6(38%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(6%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 10(63%) 2. 6(38%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 10(63%) 2. 6(38%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 0(0%)

B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 0 (0%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 15 (94%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 2 (13%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 3 (19%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 16 (100%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 3 (19%)
- 4.その他： 0 (0%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：2クラス（順不同）

1. アクティブラーニングにおいて、学生の相互評価項目を整理したことにより、短時間で評価できるように改善した。
2. 昨年度から Zoom を使用しているが、「顔出しを強制しないで欲しい」とのリクエストが多数あった。今年度、Zoom で出席確認用カメラの電源オンの強制はせず学生の意思を尊重したところ、最後の発表ではほぼ全員の学生が顔出しをしない状態で発表を行った。ある程度の強制も必要であることを再認識した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：0クラス（順不同）

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（環境と生命）

C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 16 (100%)      2.いいえ： 0 (0%)      未回答： 0 (0%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。(複数回答可)

- 1.聞いて理解する： 4 (25%)
- 2.読んで理解する： 2 (13%)
- 3.自分の考えをまとめて話す： 7 (44%)
- 4.自分の考えを文章にまとめる： 9 (56%)
- 5.討論する： 9 (56%)
- 6.皆の前でプレゼンテーションする： 14 (88%)
- 7.その他： 0 (0%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：3クラス（順不同）

1. それぞれの学生が環境問題に関するプレゼンテーションを行い、学生同士で議論し、相互評価を行った。
2. グループディスカッションと発表の場を設けた。
3. 班活動の中で、自分の考えをまとめて話す機会を設けました。

D (Q19～Q22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 5 (31%)      2.いいえ： 11 (69%)      未回答： 0 (0%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 5 (100%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 0 (0%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

- 1.歴史・文化： 0 (0%)      2.政治・経済・産業： 1 (20%)
- 3.自然環境・フィールド体験： 5 (100%)      4.その他： 0 (0%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：1クラス（順不同）

1. 宮崎県で過去に問題となった土呂久ヒ素公害と環境問題に関して取り上げました。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

**Q23.**全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 0 (0%)      2.10%以内： 0 (0%)      3.10%～20%： 1 (6%)  
4.21%～30%： 1 (6%)      5.31%～40%： 4 (25%)      6.41%～50%： 0 (0%)  
7.51%～60%： 0 (0%)      8.61%～70%： 6 (38%)      9.71%～80%： 0 (0%)  
10.81%～90%： 0 (0%)      11.91%～100%： 0 (0%)

**Q24.**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 4 (33%)      2.双方向（対話・討論）： 5 (42%)  
3.グループワーク： 11 (92%)      4.フィールド型： 0 (0%)      5.メディア活用： 1 (8%)  
6.TA活用： 0 (0%)      7.その他： 0 (0%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

**Q25.**次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 0 (0%)  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 1 (6%)  
3.英語のみで板書している： 0 (0%)  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 4 (25%)  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 0 (0%)  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 5 (31%)  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 0 (0%)  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 0 (0%)  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 0 (0%)  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 0 (0%)

教員 FD 活動レポート（基礎教育）R4 前期（学士力発展科目）

※未提出者への督促後に新たに提出（入力）されたレポートも含めた結果です。

基礎教育教務・質保証委員会

以下、各選択肢の右に該当クラス数（全回答数に対する回答率）を記します。

**A（Q1～Q10）：授業担当者として教授方法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し次の1～4のうち該当する数字を選んでください。 【1.あてはまる 2.ややあてはまる 3.あまりあてはまらない 4.あてはまらない】**

Q1. シラバスに沿って授業を行えた。

1. 42(78%) 2. 11 20(%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q2. 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

1. 36(67%) 2. 17(31%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q3. 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

1. 40(74%) 2. 13(24%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q4. 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

1. 41(76%) 2. 12(22%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q5. 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立て、満足させる教え方ができた。

1. 36(67%) 2. 17(31%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q6. 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

1. 43(80%) 2. 9(17%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

Q7. 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた／学生からの質問・発言を促した／

学生の理解度を確かめながら進めた／学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した、等）

1. 30(56%) 2. 15(28%) 3. 6(11%) 4. 1(2%) 未回答 2(4%)

Q8. 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

1. 28(52%) 2. 18(33%) 3. 6(11%) 4. 1(2%) 未回答 1(2%)

Q9. 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

1. 31(57%) 2. 22(41%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 1(2%)

Q10. シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

1. 34(63%) 2. 18(33%) 3. 0(0%) 4. 0(0%) 未回答 2(4%)

**B (Q11.~Q15) : FD活動についてお尋ねします。**

Q11. この授業科目に関してこの1年間に取り組んだFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 7 (13%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 33 (61%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 6 (11%)
- 4.その他： 17 (31%)

Q12.今後取り組もうと考えているFD活動を選んでください。(複数回答可)

- 1.他教員の授業参観： 16 (30%)
- 2.学内外のFD講演会等への参加： 35 (65%)
- 3.他大学のFD活動の視察： 16 (30%)
- 4.その他： 15 (28%)

Q13.昨年度も同一科目を担当した方は、昨年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

回答：25クラス（順不同）

1. Case samples were adjusted to suit students.(生徒に合わせてケースサンプルを調整した。)
2. 習いっばなしで終わらせないために、毎回の授業の初めに、①学生間で前回の内容の復習（ディスカッション）、②優秀なリアクションペーパーの共有を行った。
3. 映画の説明をより詳しくした。(2クラス)
4. 板書について学生から指摘が有したが、授業の配分時間と進行状況の関係上、どうしても学生が満足する字の大きさ、丁寧な字の板書はできなかった。自身はその点を考慮し丁寧に板書するように心掛けたつもりである。しかし、何人かの学生は授業評価で字が小さい、見えにくい等の意見は有した。
5. 昨年度は退職年度であったため、予定外の仕事に忙殺されて時間通りの録音配信ができないこともあった。本年度は何とか時間割通りの配信ができた。(2クラス)
6. 学生たちの自主性に委ねる部分を増やした。そのための観察、コミュニケーションを継続した。
7. 昨年度の結果というよりも、コロナ対応を含め、今年度の状況に応じて、適切な対応ができるように考慮した。コロナに配慮しながら、対面の授業で、如何に受講生と双方向でやり取りを行うような授業にするかについてはとても苦労した（うまくいったとはいい難い）。
8. 最後の1コマ（第15回）について、オンライン授業に代わり対面授業を復活できたこと
9. 対面講義を受講当初に計画し講義の趣旨説明を強化した
10. 遠隔授業の実施に際して細かなレポートを提出することで、学生の理解度を高めた。
11. 事前にレジメをアップし予習ができる環境整備とリアクションペーパーを活用し復習と学びの掘り起こしを行った。
12. 100%オンライン（オンデマンド）型だった昨年度に比べ、今年度は対面型が中心だったため、学生と直接的なコミュニケーションをとりながら授業を進めることができた。なお、オンデマンド授業をも交えた授業構成にしたため、両方の長所を生かした授業ができたと考える。
13. Better balance between general English and English for Nursing Purposes  
(一般英語と看護英語のバランスが取れている)
14. 生徒の興味を引くために、いつもと違う教科書を使いました。

15. More streamlined teaching of history taking（2クラス）（ヒストリーテイキングのより合理化された指導）
16. プレゼンテーションやエッセイに重きを置いている。（2クラス）
17. 前回と違い、今回は対面授業だったので、学生の学習態度をまじかで見ることができ、直に何が分からないかを積極的に聞くことができて良かった。また、学生の要望により、リスニングのスクリプトを事前に渡し、予習ができるようにした。
18. ・教材の改訂・プロジェクター、スクリーン等のプレゼンテーションに必要な機器の充実・機器の設営・撤去についての詳細な説明・留学生 TA との授業打合せ（2クラス）
19. 本クラスは留学生を招待して彼らの英語を聞く、及び彼らに自分達（日本人学生）のことを英語でプレゼンするプログラムが組まれている。昨年度のオンラインではこのプログラムはビデオを観る形で実施せざるを得なかったが、今年度は、授業に招待することができ、理解度をあげるための下準備、資料提供などを工夫。
20. 今回は、共通教材だったので、学生が取り組みやすいように、単語や連語の音声ファイルを創り授業前に予習ができるよう工夫した。

Q14.自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、このFD活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答：20クラス（順不同）

1. 次回は対面で行いたい。
  2. 毎回の授業では開始10分前の入室を厳守し開始の合図とともに授業を始め、教員の授業に対する意欲・姿勢を示した。このことが功を奏したのか、190名の受講者にも拘らず遅刻者は少なかった。
  3. たとえ録音講義であっても学生側に疑問を投げかけるような話し方をすべきであった。（2クラス）
  4. 学生同士がコミュニケーションをとれる機会を積極的に設けた。授業時間外の学習を促進するための取組を今後考えたい。
  5. 学生が、暑さにだらけず、主体的に活動し、準備片付けなどを含めて効率的な授業運営ができた。そのように毎授業で働きかけをしたり、記録カードなどの仕掛けをしているが、そうした状況をつくり、維持できたことはよかったと考える。改善の余地として、天候によって授業場所の変更を余儀なくされるが、その場合の授業展開の軌道修正、場所変更時の実施内容について、より一貫性、あるいは連関をもたせた教材づくりを図っていく。
  6. 予防医学について身近なことを題材に若年時から取り組めるように動機づけ出来ることが評価できる点と捉えています。
  7. 地域の経営者のインタビューも盛り込み、興味をひきつけるようにしている。
  8. 色々な学部の学生が受講しており授業レベルをどこに設定するのか難しかった。農学部や工学部の学生には難易度が高かったようだ。
  9. 対面とオンデマンドを併行したのは初めての試みだったが、どちらかの授業より学生や授業管理の面において教員の負担が大きいことが分かった。今後対策を講じたい。
10. Greater awareness of sections difficult for students（3クラス）  
（学生にとって難しいセクションへの意識の向上）
11. リスニングのアクティビティやテストが難しかった。だから、私は学生たちがもっと準備し、練習するのを助けるべきです。
  12. 学生の英語での会話時間を増やしたい。（2クラス）
  13. 学生にはできるだけ声掛け、また、ペアーワークを増やし積極的に参加できるようにした。

14. 評価できる点：・ループリックの使用により、学生へ到達目標を具体的に示している点・英語によるプレゼンテーション、質疑応答に向けたサポートを細やかに行っている点（2クラス）
15. 今回は、共通教材だったので、学生が取り組みやすいように、単語や連語の音声ファイルを創り授業前に予習ができるよう工夫した。授業時には、できるだけペアワークで、対話等のロールプレイをしていただき身近に感じられるよう工夫した。

Q15.FD活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出：0クラス

**C (Q16～Q18)：中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。**

Q16.授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか。

1.はい： 41 (76%)      2.いいえ： 12 (22%)      未回答： 1 (2%)

<Q16で「はい」の方はQ17～18にお答えください>

Q17.下記のどの点を重視しましたか。（複数回答可）

- 1.聞いて理解する： 35 (85%)  
2.読んで理解する： 29 (71%)  
3.自分の考えをまとめて話す： 24 (59%)  
4.自分の考えを文章にまとめる： 25 (61%)  
5.討論する： 19 (46%)  
6.皆の前でプレゼンテーションする： 19 (45%)  
7.その他： 8 (20%)

Q18.「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら記述してください。

回答：23クラス（順不同）

1. Consideration of counseling scenarios (カウンセリングシナリオの検討)
2. 授業では、授業項目の重要点について、具体的事例を挙げ質問形式をとり学生に意見を求めるようにした。しかし、自主的に自己の考えを述べる学生は少なく、指名すれば回答するといった感がある。今後は、いかにしたら学生が主体的に発言するかといった課題があり、その解決に向けた努力と工夫が必要であると痛感した。
3. 講義ごとに「講義要約と感想」を課題レポートとして書いてもらった。（2クラス）
4. 実技種目におけるチーム作成を学部等が重複しないようメンバーを調整し、普段コミュニケーションをとる機会の少ない人と会話機会を設けるようにした。
5. 学生相互に教え合いや、目標・作戦を立てるなどのコミュニケーション機会を設けた。
6. グループ討論
7. 複数の学生で観察可能な薬草園見学
8. メンタルヘルスとコミュニケーションなど具体的な内容を盛り込んでいる点

9. 毎回のレポート
10. グループワークは多く行った。
11. 課題や会話の時間にはペア活動やグループ活動をさせている。
12. I focus upon developing cognition as much as language skills. (3クラス)  
(語学力と同じくらい認知力の向上にも力を入れています。)
13. 留学生を TA として教室に招き、グローバルな空間の中で互いに英語によるプレゼンテーションおよびディスカッションを行う取り組みを行っている。
14. ペアワーク、グループワークを授業の中に組み込む。留学生に対してチームでプレゼンテーションを行うなど。
15. 留学生を TA として教室に招き、グローバルな空間の中で互いに英語によるプレゼンテーションおよびディスカッションを行う取り組みを行っている。
16. ペアワーク、グループワークを多用した授業の実施。最終回のクラス内プレゼンテーションの実施など。
17. 共通教材を使い、ペアで質問をしできるだけ follow up Questions をして話を続けるよう指導した。
18. グループで英語のプレゼンテーションを取り入れた。(3クラス)

**D (Q19～Q22) : 中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育／共通教育プログラム」についてお尋ねします。**

Q19.授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか。

1.はい： 16 (30%)      2.いいえ： 35 (65%)      未回答： 3 (6%)

<Q19で「はい」の方はQ20～Q22にお答えください>

Q20.その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

1.1回～5回： 11 (69%)      2.6回～10回： 0 (0%)      3.11回～15回： 5 (31%)  
未回答： 0 (0%)

Q21.「地域」のどのような分野を取り上げていますか。(複数回答可)

1.歴史・文化： 5 (31%)      2.政治・経済・産業： 5 (31%)  
3.自然環境・フィールド体験： 6 (38%)      4.その他： 4 (25%)

Q22.「地域を教材とした基礎教育／共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答：6クラス（順不同）

1. 地域の国際化に関する授業
2. 延岡（九州保健福祉大学）の薬草園観察
3. 職域並びに地域での健康支援のあり方について現場を取材して教材としている。
4. 宮崎県へのIターンUターンを目的としたプレゼンテーションを作成することで、宮崎県域の理解を促進できた。
5. 実際の市民活動補助金申請書類を利用し、グループワークで取り組ませた。
6. 故郷の紹介文を英語で書く。

**E(Q23～Q24)：中期目標・中期計画のうち「アクティブ・ラーニング」の導入についてお尋ねします。**

**Q23.**全授業回数のうち、アクティブ・ラーニングをどのくらいの割合で取り入れましたか。

例：全15回の授業で3回取り入れた場合（1回の授業における割合は問いません） → 20%

1.0%： 6 (11%)      2.10%以内： 8 (15%)      3.10%～20%： 2 (4%)  
4.21%～30%： 3 (6%)      5.31%～40%： 1 (2%)      6.41%～50%： 1 (2%)  
7.51%～60%： 3 (6%)      8.61%～70%： 1 (2%)      9.71%～80%： 1 (2%)  
10.81%～90%： 7 (13%)      11.91%～100%： 18 (33%)

**Q24.**アクティブ・ラーニングを取り入れた授業を行った方にうかがいます。

次の授業形態及び教育方法の内、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.少人数（10人程度）： 16 (36%)      2.双方向（対話・討論）： 26 (58%)  
3.グループワーク： 28 (62%)      4.フィールド型： 4 (9%)      5.メディア活用： 13 (29%)  
6.TA活用： 3 (7%)      7.その他： 10 (22%)

**F：中期目標・中期計画のうち「英語を取り入れた授業」についてうかがいます。**

**Q25.**次のうち、該当するものをチェックしてください。（複数チェック可）

1.授業を英語のみで行っている： 8 (15%)  
2.授業の一部（重要なポイントの説明等）を英語で行っている： 12 (22%)  
3.英語のみで板書している： 11 (20%)  
4.重要な語句（専門用語）あるいは説明だけを英語（一部英語併記）で板書している： 15 (28%)  
5.英語のみの教材・資料を使用している： 11 (20%)  
6.一部英語併記の教材・資料を使用している： 12 (22%)  
7.英語のみ、あるいは日本語と英語併記のシラバスを使用している： 13 (24%)  
8.学生による発表の場合、口頭あるいはポスターでのプレゼンテーション等で英語を使用している： 12 (22%)  
9.宿題、課題レポートあるいは試験の問題文等に英語（一部英語併記）を使用している： 16 (30%)  
10.学生間のディスカッションで一部英語を使用している： 14 (26%)